

令和 3 年 10 月 18 日現在

機関番号：24403

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2019

課題番号：18K17432

研究課題名（和文）初期キャリア形成期看護師におけるピア・コーチングの関連要因の探索

研究課題名（英文）An Exploration of the Related Factors of Peer Coaching for Nurses in the Initial Career-Development Period

研究代表者

富田 亮三（Ryozo, Tomita）

大阪府立大学・看護学研究科・助教

研究者番号：90814012

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究は、初期キャリア形成期看護師のピア・コーチングが専門職的自律性や職業的アイデンティティにどのように影響しているのかを明らかにすることを目的としている。病院で勤務する卒後2・3年目の看護師を対象に質問紙を用いてピア・コーチングと専門職的自律性、職業的アイデンティティ、個人属性について調査を行い、多重指標モデルを作成して分析を行った。ピア・コーチングの職業的アイデンティティへの影響は示されなかったが、ピア・コーチングの専門職的自律性への影響は明らかとなった。したがって、ピア・コーチングの活用可能性への示唆が得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によって、ピア・コーチングの職業的アイデンティティへの影響は示されなかったが、ピア・コーチングの専門職的自律性への関係は明らかにすることができた。ピア・コーチングに関する国内の研究において関係性を示したものは希少で、本研究の結果はピア・コーチング研究を発展させていくうえで貴重な資料となる。また、ピア・コーチングの活用性を示唆する結果であったため、研究を進めていくことで看護師の成長に寄与でき、患者にとって、より安全で安楽な看護を提供することにつながる。

研究成果の概要（英文）：This study aims to explore the influence of peer coaching on nurses' professional autonomy and identity in the initial period of their career development. A questionnaire was distributed to nurses in their second or third year after graduation, who were actively employed by hospitals. The questionnaire consisted of "the peer coaching scale for nurses during the initial career-development period," "the scale for professional autonomy in nursing," "the nursing professional identity scale," and questions capturing background characteristics. Multiple indicator models were created and analyzed. The influence of peer coaching on professional identity was not demonstrated. However, the influence of peer coaching on professional autonomy was clarified. This suggests the possibility of using coaching.

研究分野：看護教育学

キーワード：ピア・コーチング 専門職的自律性 看護師 看護教育学

1. 研究開始当初の背景

2012年に「継続教育の基準」が改訂され、看護職が一定水準以上の継続教育を受けられるよう、組織の教育提供体制および教育内容を充実するための指針が示された(日本看護協会, 2012)。このように、継続教育による看護師の能力開発は、看護の質の維持・向上に対する重要な取り組みである。看護師にとって初期キャリア形成期(卒後2・3年目)は、基礎的な知識や技術を土台にし、高度な看護ケアに発展させていく重要な時期である(谷脇, 2006)。しかし、この時期は「自分の適性・能力への不安」を抱えており、新卒看護師に比べて教育的支援が充実しているとは言い難い状況にある(山田ら, 2014; 成田, 2015)。

ピア・コーチングとは、二人以上の専門職における同僚の間でなされる、実践の振り返りや能力の洗練、広がり、新しいスキルの構築、アイディアの共有、問題解決、教え合うなどの協同作業を通じたプロセスである(Robbins, 1991)。ピア・コーチングによって批判的思考の強化と技術力の発達(Broschius & Saunders, 2001)や看護の知識とエビデンスに基づいたケアが広がるとされている(Peinhardt & Hagler, 2013)。海外では方法論や有用性が研究されているが、国内での研究は希少である。初期キャリア形成期看護師におけるピア・コーチングの相互関係の構造を明らかにした研究(富田ら, 2016)はみられるが、関連要因を明らかにした研究や教育的支援プログラムはみられない。ピア・コーチングと他の概念との関係を明らかにすることは、教育的支援としてのピア・コーチングをより効果的に活用するために有益であり、教育的支援が充実しているとは言い難い初期キャリア形成期の看護師の支援を考える一助になる。

コーチングと自律性が関係しているという研究(Yu et al., 2008)やピアの関係による教育であるピアエデュケーションと職業的アイデンティティの関係を示した研究(高木, 落合, 2009)があり、近似の概念であるコーチングやピアエデュケーションに関する先行研究をふまえると、ピア・コーチングが専門職的自律性と職業的アイデンティティに何らかの影響を及ぼしていると推察される。我が国にとっての喫緊の課題である社会保障の改革を見据え、国民のニーズに応えられる看護師に成長するためには、専門職的自律性と職業的アイデンティティは必要不可欠な要素である。そのため、ピア・コーチングが専門職的自律性、職業的アイデンティティにどのように影響しているのかを明確にしておくことで、プロフェッショナルとしての看護師を育てるための基盤的資料となる。

2. 研究の目的

本研究では、ピア・コーチングが看護師という専門職業人として成熟していくうえで重要な概念である専門職的自律性や職業的アイデンティティにどのように影響しているのかを明らかにすることを目的とする。

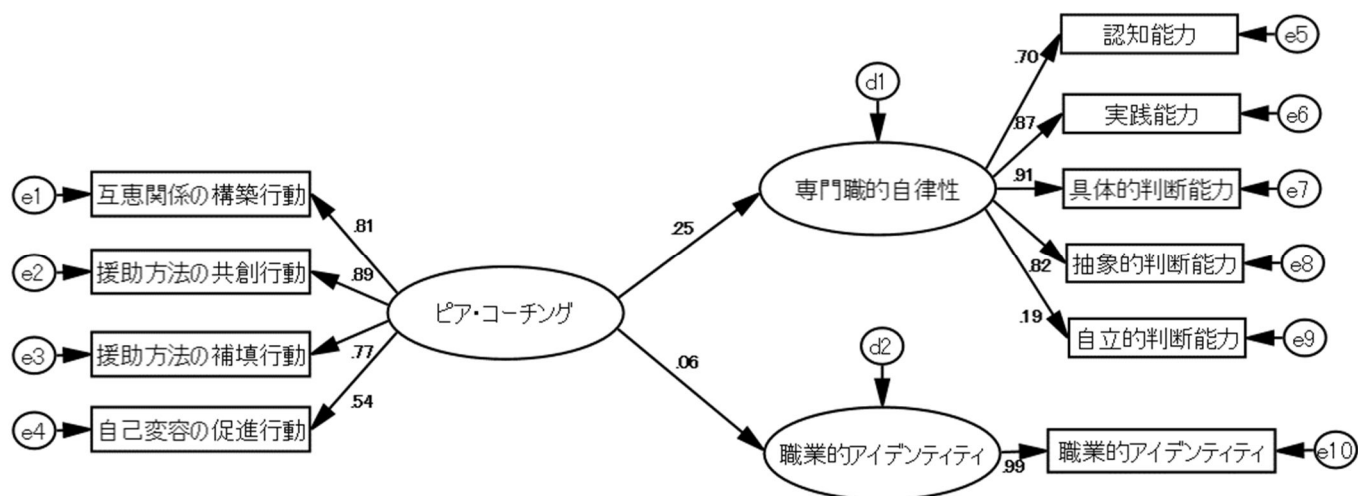
3. 研究の方法

全国の一般病床数200床以上の医療施設に所属する初期キャリア形成期看護師1,327名を対象とした。また、次の条件を満たす者とした。社会人経験がない卒後2・3年目の者、同一部署に継続して勤務している者、部署に同期入職の看護師がいる者である。なお、外来・手術室に所属する看護師は除いた。2018年7月から9月に、施設の看護部長または看護研究責任者に研究協力の承諾を得て、無記名自記式質問紙を配布した。対象者から個別に質問紙を郵送していただき回収した。調査内容は、「初期キャリア形成期看護師のピア・コーチング測定尺度」(富田, 細田, 2019)、「看護師の自律性測定尺度」(菊池, 原田, 1997)、「看護職へのアイデンティティ尺度」(波多野, 小野寺, 1993)、個人背景(年齢、性別、看護師経験年数、同じ病棟に所属する同期入職看護師の人数、基礎教育課程)であった。分析として記述統計量を算出後、個人背景によってピア・コーチングに差がないことを確認した。さらに、初期キャリア形成期看護師のピア・コーチングが専門職的自律性、職業的アイデンティティに影響を及ぼしていると仮説を立て、その関係性について共分散構造分析を用いて検討した。本研究は、大阪府立大学大学院看護学研究科研究倫理委員会の承認を得た上で実施した(申請番号30-02)。

4. 研究成果

有効回答の328名のデータをもとに分析を行った。年齢が平均23.3歳($SD = \pm 1.1$)、同じ部署に所属する同期の人数は平均 2.8 ± 1.5 人で、女性309名(94.2%)、男性19名(5.8%)で、看護師経験年数は、2年目が141名(43.0%)、3年目が187名(57.0%)であった。個人背景である性別(男性・女性)、看護師経験年数(卒後2年目・3年目)、基礎教育課程(大学・3年課程の専門学校)毎に、ピア・コーチングを比較したが、有意な差はみられなかった。ピア・コーチング、専門職的自律性、職業的アイデンティティを潜在変数として、それぞれの下位尺度を顕在変数として、ピア・コーチングから専門職的自律性と職業的アイデンティティへパスを引き、多重指標モデルA(図1)を作成して分析を行った。結果、職業的アイデンティティへのパスが有意にはならなかったため削除した。その後、ピア・コーチングと専門職的自律性を潜在変数として、ピア・コーチング測定尺度の下位尺度と自律性測定尺度の下位尺度を顕在変数とし、多重指標モデルB(図2)を作成して再分析を行った。その結果、すべてのパスが有意であり、ピア・コーチングから専門職的自律性へのパス係数は0.23で、多重指標モデルの適合度指標は $GFI=0.968$ 、 $AGFI=0.942$ 、 $CFI=0.982$ 、 $RMSEA=0.057$ と許容範囲内であった。初期キャリア形成期看護師のピア・コーチングと専門職的自律性の関係が明らかとなり、ピア・コーチングに

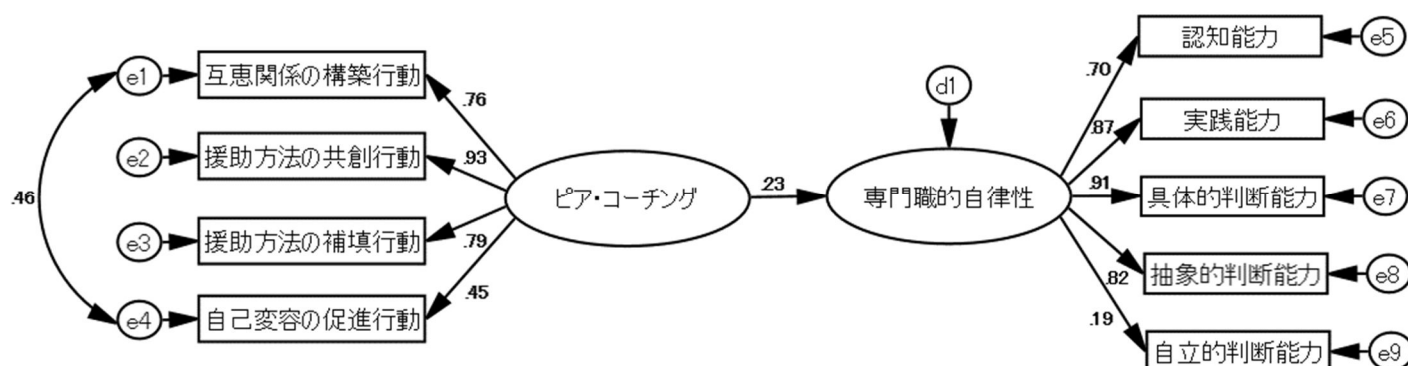
よって専門職的自律性が育まれる可能性が示唆された。



標準化推定値, N=328

GFI=0.898, AGFI=0.835, CFI=0.906, RMSEA=0.114

図 1 多重指標モデル A の分析結果



標準化推定値, N=328

GFI=0.968, AGFI=0.942, CFI=0.982, RMSEA=0.057

図 2 多重指標モデル B の分析結果

< 引用文献 >

- Broscious, S. K. & Saunders, D. J. (2001). Peer coaching. *Nursing Educator*, 26(5), 212-214.
- 波多野 梗子, 小野寺杜紀 (1993). 看護学生および看護婦の職業的アイデンティティの変化. *日本看護研究学会雑誌*, 16(4), 21-28.
- 菊池昭江, 原田唯司 (1997). 看護専門職における自律性に関する研究. *看護研究*, 30(4), 23-35.
- 成田真理子, 石井範子 (2015). 看護師の看護実践環境と職務満足との関連 - 卒後 2~3 年目の特徴を探索 -. *秋田大学保健学専攻紀要*, 23(2), 35-47.
- 日本看護協会 (2012). 継続教育の基準 ver. 2, Retrieved from: <http://www.nurse.or.jp/nursing/education/keizoku/pdf/keizoku-ver2.pdf>
- Peinhardt, R. D. & Hagler, D. (2013). Peer coaching to support writing development. *Journal of Nursing Education*, 52(1), 24-28.
- Robbins, P. (1991). How to plan and implement a peer coaching program (pp.1-7). Association for Supervision and Curriculum Development, Virginia.
- 高木有子, 落合幸子 (2009). 医療系大学でのピアエデュケーションが職業的アイデンティティに及ぼす影響. *茨城県立医療大学紀要*, 14, 99-107.
- 谷脇文子 (2006). 卒後 2~3 年目看護師の臨床能力の発展に関する研究 - 卒後 2 年目と 3 年目看護師の臨床能力の向上・促進と経験の特質 -. *高知女子大学紀要*, 55, 39-50.

- 富田亮三, 細田泰子, 紙野雪香 .(2016). 初期キャリア形成期の看護師におけるピア・コーチングの相互関係の構造 . 日本看護学教育学会誌 , 25 (3), 13-24 .
- 富田亮三, 細田泰子 .(2019). 初期キャリア形成期看護師のピア・コーチング測定尺度の開発 . 日本看護科学会誌 , 39 , 82—90 .
- 山田典子, 横川亜希子, 村松真澄, 三上智子, 内田雅子 .(2014). 大卒看護職の初期キャリアにおける就職満足感と離職願望 . 札幌市立大学研究論文集 , 8 (1), 19-29 .
- Yu, N., Collins, C. G., Cavanagh, M., White, K., & Fairbrother, G. (2008). Positive coaching with frontline managers: Enhancing their effectiveness and understanding why. *International Coaching Psychology Review*, 3(2), 110-122.

5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1．発表者名 富田亮三，細田泰子
2．発表標題 初期キャリア形成期看護師のピア・コーチングと専門職的自律性、職業的アイデンティティの関係性の探索
3．学会等名 日本看護研究学会学術集会 第45回学術集会
4．発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------